

■ 腹腔鏡手術

腎摘出術 腎部分切除術 副腎摘除術 腎尿管全摘出術 後腹膜鏡下後腹膜リンパ節郭清術

腎摘出術

現在、腎臓に腫瘍があり、悪性の可能性があるため腎臓ごと摘出が必要です。腹腔鏡を用いて手術を行う予定です。

- 手術方法:右腎を摘出する場合は左側を下に、左腎臓を摘出する場合は右側を下にして側臥位になり、数本の管を腹壁に設置し、その管から腹腔鏡や専用の鉗子やハサミを体内に挿入して手術を行う予定です。腎周囲脂肪組織を剥離し、腎臓を露出させ、腎動脈と腎静脈をそれぞれクリップ、自動縫合器などで遮断・切離し、尿管を切り離し、腎臓周囲を剥離して摘出します。手術時間は約4時間程度を予定していますが、安全に手術を行うために延長する場合があります。

腎部分切除術

現在、腎臓に腫瘍があり、悪性の可能性があるため摘出が必要です。腫瘍の位置、大きさから腎腫瘍の部分のみを腹腔鏡を用いて摘出手術を行う予定です。

- 手術方法:右腎を摘出する場合は左側を下に、左腎臓を摘出する場合は右側を下にして側臥位になり、数本の管を腹壁に設置し、その管から腹腔鏡や専用の鉗子やハサミを体内に挿入して手術を行う予定です。腎周囲脂肪組織を剥離し、腎臓を露出させ、腎動脈の血流を一時的に遮断し、腎腫瘍とその周囲を約1cm程度つけて部分的に切除します。その後腎臓を縫合します。手術時間は約5時間程度を予定していますが、安全に手術を行うために延長する場合があります。

副腎摘除術

現在、副腎腫瘍を認めており、精査の結果手術による摘出が必要と判断されました。腹腔鏡を用いて手術を行う予定です。

- 手術方法:全身麻酔後、右副腎を摘出する場合は左側を下に、左副腎を摘出する場合は右側を下にして側臥位になり、数本の管を腹壁に設置し、その管から腹腔鏡や専用の鉗子やハサミを体内に挿入して手術を行う予定です。副腎周囲脂肪組織を剥離し、副腎を露出させ、副腎動脈と静脈をそれぞれ電気メス、超音波メス、クリップなどで遮断・切離して摘出します。手術時間は約4時間程度を予定していますが、安全に手術を行うために延長する場合があります。

腎尿管全摘出術

腎盂または尿管腫瘍が悪性腫瘍の可能性があるため腫瘍を摘出し病理学的診断を行うため上記の手術を予定しています。手術は腎盂または尿管腫瘍の性質上、尿路に再発・転移しやすい腫瘍のある側(患側)の腎尿管と膀胱の一部を切除します。

- 手術方法:
 - 腫瘍のある側を上にした側臥位になり、数本の管を皮膚からお腹へ設置しその管から腹腔鏡専用のカメラや鉗子などを体内に挿入して手術を行う予定です。腎臓から尿管、を周囲からとりはずし腎動脈と腎静脈をそれぞれクリップ、自動縫合器などで切断し、腎臓・尿管を骨盤付近まで取り外します。術中に合併症や癒着などで腹腔鏡による手術の継続が困難な場合には、開腹術に変更することがあります。
 - その後、仰向けへ体の位置を変更し、お臍より下から恥骨まで皮膚切開します。骨盤内の尿管を膀胱までたどり、尿管から膀胱へ移行する場所を周辺から取り外し腎尿管を摘出します。このときに膀胱を一部切除することもあります。手術時間は約6時間を予定していますが、手術を安全にすすめるためより時間が長くなることもあります。術後7日目後に尿道カテーテルを抜去する予定です。

後腹膜鏡下後腹膜リンパ節郭清術

腫瘍マーカーは陰転化していますが、後腹膜リンパ節腫大を認めます。これを放置すると再発の危険があるためリンパ節(腫大リンパ節だけでなく、大血管のまわりのリンパ節も)の摘出を行ないます。手術は全身麻酔・硬膜外麻酔下にて行い、腹部に数カ所の穴をあけ、そこから後腹膜鏡を挿入し、大血管周囲のリンパ節を摘出します。手術時間は約4時間を予定していますが、安全の為に時間を延長する場合があります。麻酔方法:全身麻酔+硬膜外麻酔→麻酔の詳細は手術前日に麻酔科医が説明します。考えうる手術の合併症として以下が挙げられます。

- 出血: 場合により輸血を行います。術後出血の場合は再手術(止血術)が必要なこともあります。
- 腸管損傷: 損傷が軽度の場合は術後1週間程度の絶食・高カロリー輸液にて対応します。高度の場合は人工肛門造設し、2、3ヶ月後に閉鎖術を施行する場合があります。
- 肝臓、脾臓などの周囲臓器の損傷: 外科的に適切な処置を行います。
- 疼痛(鎮痛剤:注射、坐薬、内服など使用します。)
- 創部感染・その他感染: 術前から予防的抗生剤の点滴を行います。それでも感染を起こした場合は、適切な抗生剤、外科的処置にて対処します。場合により傷をあけて膿を出すこともあります。
- 循環器系の合併症: 心筋梗塞、狭心症、脳梗塞、深部静脈血栓症などは専門医と相談して対応します。
- 腸閉塞: 絶食、腸を動かす薬の点滴にて対応します。
- 無気肺・気胸: 側臥位になるため、特に下になった側の肺が痰などで無気肺を生じる可能性があります。肋骨を切除する際胸膜を傷つけて、気胸を生じる場合があります。それぞれ必要な処置を施行します。場合により胸腔ドレーンを挿入します。

また、術中に合併症や癒着などで腹腔鏡による手術の継続が困難な場合には、開腹術に変更することがあります。

一覽 膀胱全摘:男性 膀胱全摘:女性 前立腺全摘 腹腔鏡手術 経尿道的膀胱腫瘍切除
 生体腎移植:ドナー 生体腎移植:レシピエント 前立腺小線源療法 開腹腎摘出 開腹後腹膜リンパ節郭清
 シヤント造設 経尿道的尿管結石 体外衝撃波結石破碎術 小児 検査